

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4079500148
法人名	有限会社 グループホームひまわり
事業所名	グループホームひまわり
所在地	福岡県田川郡糸田町4143-1 (電話) 0947-26-2622

評価機関名	特定非営利活動法人 ヘルスアンドライツサポート うりずん		
所在地	直方市知古1丁目6番地48号		
訪問調査日	平成19年11月10日	評価確定日	平成19年12月15日

【情報提供項目より】(19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年11月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人
職員数	23人	常勤	13人, 非常勤 10人, 常勤換算 11人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	平屋 1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 8,000円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	800 円	

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

登録人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	6	要介護2	3		
要介護3	6	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 79.2歳	最低	62歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中医院 糸田緑ヶ丘病院 藤下医院 諫山歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームひまわりは平成鉄道の駅前のスーパーマーケットを改造した2ユニットのグループホームである。設立から5年が経過し、開設当初からの入居者が少しずつ重度化する中で、入居者らしさを支援したいと入居者の職歴や生活歴に沿って、信仰行事への参加の支援や絵画・調理等の得意分野で出番を設け楽しみ事を支援するばかりでなく、嗜好が喫煙である視覚障害のある入居者と職員が食後にゆったり一服するなどは、まさに生活を支援している。このようなアットホームな雰囲気は、入居者や職員のそれぞれが率直に話ができるさくばらんな関係作りによるもので、恒例の1泊旅行は入居者や家族の参加でにぎやかであるが、旅行に参加したいと歩行訓練に励む入居者への声かけにも現れている。管理者はこの機会を活かして、本年度は家族会の発足も予定している。法人代表が視覚障害者でもあり、入居者・職員の相談等窓口になり、より入居者に寄り添うケアを実施している。地域の祭りや文化祭等にも参加し、近隣と住民としてのお付き合いもあるので、法人代表・管理者等がホームでの実践や工夫を交流を通じて伝えることで、地域密着型サービスとしての躍進を期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価結果に沿って、運営理念を玄関の見やすい場所に掲示したり、訪問看護記録を整備している。重要事項説明書に行政機関等に意見苦情相談窓口を明記し、介護計画を3ヶ月毎に見直している。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は各職員が記入し、管理者がとりまとめ記入している。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	2ヶ月毎に地域包括支援会議の名称で行政担当者・地域代表者・家族等の参加で運営推進会議を開催している。行政担当者が運営推進会議の目的等について話しをしたり、管理者がホームの運営等を報告しているが、運営推進会議に関する規程等の整備がない。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族の来訪時に近況を報告したり、日ごろの暮らしぶりを撮った写真等を掲載した「ふれあい」を年4回発行している。町内で実施されている健康診断の受診を支援し、検査結果のファイルがある。入居者毎の金銭出納帳を整備し、家族の確認印がある。職員の離職等は随時入居者に話している。家族会はないが、毎年恒例になっている1泊旅行に家族の参加もあるので、その折に家族会を発足したいと管理者は話している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の区割りが複雑なことから、現在は自治会に加入していないが、地域住民として祭りに関わり、入居者も御神輿を接待している。また、敬老会に参加したり、文化祭に入居者の作品を展示している。地域へのホーム行事のお誘いはこれからであるが、中学生や一般のボランティアを受け入れている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の能力に応じた自立した生活の支援」を入居契約書・重要事項説明書に明記し、理念の具現化に取り組んでいる。理念や重要事項説明書は玄関に掲示している。	○	介護保険制度改正に伴う、地域密着型サービスの法令である「地域との交流の下」をパンフレット・重要事項説明書等にも謳っていただきたい。また、重要事項説明書等は玄関入り口にまとめて掲示しているが、入居者や家族等が見易いように掲示の工夫をお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の具現化として独自の社訓を掲示し、朝礼等で確認している。入居者が散歩をしていると、近隣の方の声かけがあり、地域の住民として受け入れられている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区割りが複雑なことから、現在は自治会に加入していないが、地域住民として祭りに関わり、入居者も御神輿を接待している。また、敬老会に参加したり、文化祭に入居者の作品を展示している。地域へのホーム行事のお誘いはこれからであるが、中学生や一般のボランティアを受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員が記入し、管理者がとりまとめ記入している。前回の外部評価結果に沿って、運営理念を玄関の見やすい場所に掲示したり、訪問看護記録を整備している。重要事項説明書に行政機関等に意見苦情相談窓口を明記し、介護計画を3ヶ月毎に見直しをしている。	○	パート職員が多いことから、毎日の朝礼・申し送り時等に全職員に自己評価・外部評価の意義や活用の周知をお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に地域包括支援会議の名称で行政担当者・地域代表者・家族等の参加で運営推進会議を開催している。行政担当者が運営推進会議の目的等について話しをしたり、管理者がホームの運営等を報告しているが、運営推進会議に関する規程等の整備がない。	○	運営推進会議に関する規程等の整備とともに名称の検討をお願いしたい。今回の外部評価結果の報告や推進委員の意見等の詳細な議事録の整備もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	民生員や生活保護担当の職員の訪問があり、入居者の状況について話し合い、より良いサービス提供をしている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	成年後見制度に関する研修会に出席し、入居者や家族に説明しているが、制度を活用している入居者はいない。	○	重要事項説明書等に地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の活用を明記し、制度等を説明した旨の記録を整備していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に近況を報告したり、日ごろ暮らしぶりの写真等を掲載した「ふれあい」を年4回発行している。町内で実施されている健康診断の受診を支援し、検査結果のファイルがある。金銭出納帳を整備し、家族の確認印がある。職員の離職等は随時入居者に話している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的機関の苦情担当窓口を明記し、ホールに掲示している。恒例になっている1泊旅行に家族の参加もあるので、その折に家族会を発足したいとの管理者は話している。	○	家族の意見の表出や家族間の交流の機会として、是非家族会の発足を期待したい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性から、馴染みの関係作りの重要性を理解し、職員の介護福祉士の資格や運転免許書の取得を支援すること等で、職員の離職を防止している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は年齢・性の区別はなく、20～60才と年齢に幅のある職員を採用し、入居者の孫や子の役割を担って日常生活を支援している。障害者の受け入れもしている。雇用契約書や就業規則・服務規程は整備され、定期健康診断も実施している。職員の休息の場は確保され、資格等を取得する費用を弁償するなど、職員がいそいそ働ける環境作りをしている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	朝礼・終礼等で法人代表は人権について話をしている。行政から配付された人権に関するポスターを廊下に掲示し、職員に注意を促している。入居契約書に身体拘束について明記し、マニュアルを整備しているが、虐待防止マニュアルは無い。	○	更なる人権研修・啓発活動として、行政が発行するパンフレット等を活用して研修の実施や記録の整備をお願いしたい。高齢者虐待防止マニュアルの作成や研修会の実施が望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画はないが、職員の資格取得を支援するなど職員の段階に応じた支援をしている。研修会議事録を整備し、毎日の業務の中で伝達している。法人代表が職員の悩み等に対応し、スーパーバイザー的な役割を果たしている。	○	全職員が認知症及び認知症ケアを熟知するために、新任・現任職員の年間研修計画の作成をお願いしたい。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会へは未加入であるが、地域の同業者と情報交換をしたり、他のグループホームの職員に研修の場を提供している。	○	法人代表や管理者は地域の同業者と交流し、研修等にも参加しているが、さらなる認知症及び認知症ケアの向上のために、福岡県グループホーム協議会加入の検討をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近2名の新規入居者があり、入居希望者の心身の状況を把握するために入院先に訪問し主治医・看護師・家族と面談している。その後、本人がホームに馴染めるかどうかを見極めるために、本人にホームを見学してもらった。入居後は、家族と連絡をとりながら馴染めるようにしている。訪問調査当日も、新規入居者の家族が訪問し、食事介助をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に気遣いや労いの言葉をかけられ、元気づけられている。入居者と職員は相互に率直な声掛けが実践され、ぎっくばらんな関係づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者や家族の意向を把握している。包括自立支援プログラムのアセスメントシートで心身の状況を把握しているが、職歴・生活歴等の記録がない。	○	把握した職歴・生活歴の情報を介護計画書3表に活かしているのですが、フェースシート等に職歴・生活歴の記載をお願いしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントシートを活用し、具体的な介護計画を作成している。入居者や家族の意向を介護計画書1表に記載しているが、多忙な家族も多く、家族と話し合う機会を設けることが難しい。職員の気づきや入居者の状況の変化等は介護支援専門員がとりまとめて、介護計画を作成している。	○	パート職員も多く、職員の気づきや入居者の情報を共有することは難しいが、介護計画作成の貴重な情報であることから、記録の重要性を周知していただきたい。家族の意向を伺うために、介護計画書1表を送付し、記載をお願いしてはいかがでしょうか。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に各入居者の心身状況をアセスメントし、計画を見直しているが、入居者や家族の了承のない計画書もある。退院間近の入居者がホームでリハビリテーションを行うための情報を得たいと、医療機関のカンファレンスに出席している。	○	家族の訪問がなく、家族の同意を得られない介護計画もあるが、入居者に説明することが重要であることから、認知症の状況に応じて入居者の了承を得ていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして、かかりつけ医受診等を随時支援している。主治医からの指示でホームでマッサージが受けられる入居者のために、部屋やベット等を確保している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前のかかりつけ医や協力医療機関の受診を支援し、健康を管理している。受診状況は通院記録で職員に周知し、随時家族に連絡している。月4～5回の訪問看護記録を整備している。	○	通院記録を整備し、家族へ電話等で受診状況を連絡しているため、連絡した記録の整備をお願いしたい。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約書に緊急時の対応について明記し、ホームで見取りの生じた場合に対する指針・同意書を作成し、入居者や家族に説明している。現在まで、ホームでの見取りはなく終末期は家族の希望で医療機関へ移送している。今後は丁寧なかかわりを実践するために、マニュアルを作成する予定である。	○	指針に沿った家族との話し合いの記録の整備や入居者・家族の意向に沿った介護計画の作成が求められる。マニュアルの作成を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報記載された書面は鍵の掛かる書棚に保管している。入居契約書に個人情報の利用等を明記し、入居者及び家族の同意を得ている。入居者の秘密の保持について研修を実施し、居室訪問時は、必ず入居者に声をかける等の配慮がある。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々入居者の外出や医療機関受診等の希望は、職員の勤務体制を考慮しながら、対応している。入居者が意向や希望を、率直に表出できる関係作りをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、盛り付け、配膳、台拭き等、入居者の力量に応じた関わりを支援している。伴食をしている職員は、入居者に体調を尋ねたりメニュー等を話しながら、食事をしている。食事介助担当の職員は、入居者の嚥下等を観察しながら、入居者のペースでゆっくりと食事介助をしている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室が2箇所設置され、5日入浴している。入浴拒否者には声かけを工夫するなど、無理せず柔軟に対応している。時々温泉にも出かけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	視覚障害のある入居者の喫煙を支援するために、タバコやライター、灰皿等を用意している。絵を描くのが好きな入居者には絵画道具を用意しているが、先日の地区文化祭には入居者共同の作品を出品している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事計画として毎年1回、入居者・職員・家族で1泊旅行を実施しているが、日ごろは定期的に教会に出かける入居者の送迎の支援や近隣の商店へ日常品の買い物の同行をしている。近隣と顔なじみになり、入居者が1人で歩いていると近隣から連絡をいただいたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外は施錠していない。玄関脇に事務所があり入居者の出入りを見守っている。日ごろから近隣との交流があり、外出している入居者を心配して連絡をいただくこともある。法人代表は理解できる入居者には外出先を必ず職員に伝えてくれるように常に話している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを整備しているが、今年度はまだ避難訓練を実施していない。非常災害を想定してお茶・ポカリスエット・カップ麺、卓上コンロ等を用意している。	○	定期的な避難訓練の実施が求められる。食料品等の賞味期限を明確にするためにも備蓄台帳の整備を検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>行政機関の管理栄養士に、献立表からおおよその摂取カロリーの計算をお願いし、献立作成の参考にしている。入居者毎に毎食の食事・水分摂取量を把握し、業務日誌に記載している。主治医から既往症に応じて摂取カロリー等の指示を受けたり、咀嚼・嚥下状態を考慮しながら栄養摂取や水分を確保している。定期的に体重を測定している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関脇に寝そべっているホームの愛犬が訪問者の声かけに尻尾を振って迎えてくれる。玄関入り口をスロープにして、車椅子利用の入居者の移動を容易にしている。ホームの中心にある食堂・居間の周囲は背の高さの壁で仕切られ、周囲の居室を設けているが、回廊になっているので、歩行訓練等に活用されている。回廊の所々にソファが設置され、喫煙所や憩いの場になっている。洗濯場の前にも木製の椅子がおかれ、生活感のあふれるホームである。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は畳が敷かれ、ベット・箆笥・仏壇等の持ち込みがあり、入居者の個性あふれる居室である。</p>		